

富士電機のCSRの考え方

企業行動基準のもと、すべての社員が価値観を共有

富士電機のCSRは、「経営理念」ならびに「経営方針」の実践そのものです。創業以来培ってきたキーテクノロジーであるパワーエレクトロニクス技術を駆使して、「エネルギー・環境」事業を通じて社会に貢献していくことを、その基本としています。

富士電機はこれまで、「誠実で勤勉な姿勢」で「確かなものづくり」を追求することで、ステークホルダーの皆様からの信頼獲得をめざしてきました。このことは、富士電機がこれからも社会から必要とされる会社であり続けるために欠かせない姿勢であり、使命であると考えています。

また「企業行動基準」は、そうした企業像の実現に向かって、会社とすべての社員が同じ価値観を共有し、一丸となって行動するための指針となるものです。富士電機は、2010年10月に、この企業行動基準を改訂しました。この改訂においては、国連「グローバル・コンパクト」の4分野・10原則（→次頁参照）や、生物多様性保全などの社会動向を反映するとともに、あらゆるステークホルダーを大切にするという姿勢をこれまで以上に明確にしました。

富士電機はこれらの考えのもと、地球社会の良き企業市民として、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

経営理念

基本理念

富士電機は、地球社会の良き企業市民として、
地域、顧客、パートナーとの信頼関係を深め、
誠実にその使命を果たします
豊かさへの貢献 創造への挑戦 自然との調和

スローガン

熱く、高く、そして優しく

経営方針

1. グローバルな視点で、現地完結型の事業運営を促進し、『日本の富士電機』から、『世界の富士電機』を目指します。
2. エネルギー・環境事業を中核として、企業の拡大発展を図ります。
3. 社員の意欲を尊重し、多様な人材がチームとして力を発揮できる組織運営を行います。

富士電機 企業行動基準

私たち富士電機とその社員は、経営理念に掲げる「地球社会の良き企業市民として、地域、顧客、パートナーとの信頼関係を深め、誠実にその使命を果たす」ために、「グローバル」な視点から、

1. お客様を大切にします。
2. 人を大切にします。
3. 地球環境を大切にします。
4. 株主・投資家を大切にします。
5. 社会との交流を大切にします。
6. グローバル・コンプライアンスを最優先します。

ハンドブックや社内報で「企業行動基準」を周知

企業行動基準の改訂にともない、その内容を反映したハンドブックを作成し、全社員に配布しました。同時に、社内報を活用し、「私たちの企業行動基準」と題して、半年にわたり特集企画を連載しました（日本語・英語）。各章の解説に加え、それを具現化している社員の取り組み事例を紹介し、「企業行動基準」の理解促進、周知に取り組みました。



社内報「Fe-e」

また、新入社員、新任幹部社員など節目の階層を対象にした研修プログラムにCSRのカリキュラムを組み込むことで、CSRの浸透に取り組んでいます。

現在、ISO26000を踏まえ、海外を含めた推進体制の再構築、企業行動基準をベースとしたCSR課題の洗い出しを進めています。



新任幹部社員へのCSR研修

国連「グローバル・コンパクト」への賛同

グローバル・コンパクトへの参加表明を機に、CSR活動実態調査を実施

富士電機は、国連「グローバル・コンパクト※(GC)」の趣旨に賛同し、2010年2月にGCへの参加を表明しました。

これとともない、GCの4分野・10原則の社内浸透と、取り組み課題の洗い出しを目的に、国内外の連結子会社に対して、CSR活動に関する実態調査を実施しました。

調査にあたっては、コンサルタント会社と共同で、GCで求められている基本レベルの取り組み状況を確認する調査シートを作成しました。今回の調査では、ただちに改善が必要だと思われる問題は見つかりませんでしたが、今後は、この調査結果をもとに、10原則のさらなる浸透と意識啓発に取り組んでいきます。

※ グローバル・コンパクト:2000年に国連本部で正式に発足したCSRのイニシアティブ。GC参加企業・団体には、「人権、労働基準、環境、腐敗防止」の4分野における10原則を支持し、持続可能な成長を実現するための自発的な取り組みが求められている。



GCの4分野・10原則

分野	原則
人権	原則1: 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
	原則2: 人権侵害に加担しない。
労働基準	原則3: 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
	原則4: あらゆる形態の強制労働を排除する。
	原則5: 児童労働を実効的に廃止する。
環境	原則6: 雇用と職業に関する差別を撤廃する。
	原則7: 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
	原則8: 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
腐敗防止	原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。
	原則10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

富士電機のCSRに対する社外評価

SRI(社会的責任投資)インデックスへの組み入れ

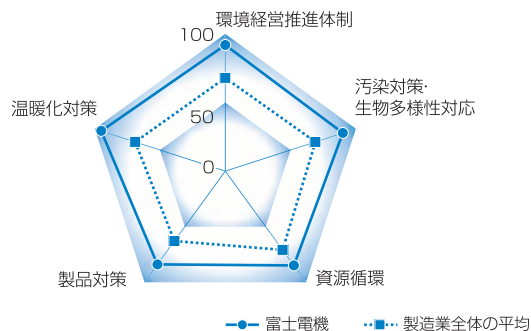
富士電機はCSRへの取り組みが評価され、ダウ・ジョーンズ社(米国)とSAM社(スイス)による国際的なSRI株価指数である「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に、2005年から6年連続で選定されています。またSAM社による格付けでも、シルバークラスに選定されています。

このほか、モーニングスター社(日本)の「MS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)」の構成銘柄150社にも選定されています。



企業の環境経営度調査

日本経済新聞社は、調査表への回答をもとに企業の環境経営度を評価し、そのランキングを公表しています。2010年度は475社が評価を受け、富士電機は56位(前年度40位)でした。



CDPの調査で、日本企業の10位に選出

CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)とは、世界の機関投資家が連携し、企業に対して気候変動への戦略や具体的な温室効果ガスの排出量の公表を求めるプロジェクトです。日本では株式の時価総額上位500社を対象に実施されており、2010年の調査では、富士電機は国内第10位に選ばれました。